



The Partner for Success

第49期 中間ビジネスレポート

2024年4月1日～2024年9月30日

株式会社 図研

証券コード 6947



グローバル競争に勝ち抜くモノづくりを支援するため、エンジニアリングITの価値向上に努めます

株主の皆さまには、平素のご厚情に心より御礼申し上げます。第49期中間ビジネスレポートをお届けするにあたり、業績および事業活動に関してご報告いたします。

代表取締役社長 谷部 隆也

業績について

当中間期の経済環境につきましては、中国経済の下振れ懸念などから先行き不透明な状況は続いているものの、堅調な企業収益などを背景に緩やかな回復基調で推移しました。製造業におけるDXへの取り組みは加速しており、当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクス製造業、自動車関連・産業機器製造業におきましても、DXに向けたIT投資は活発な状況が続いています。

このようななかで、当中間期の売上高は、190億7千9百万

円(前年同期比 6.7%増)となり、すべてのソリューションで売上が伸長し、上半期として過去最高となりました。特に、日本においては、主力の電気設計システム「CR-8000 Design Force」や設計データ管理システム「DS-CR」が順調に売上を伸ばし、欧州においては、ワイヤハーネスの設計システム「E3. series」や設計データ管理システム「DS-E3」の販売が好調に推移しました。

利益面につきましては、売上高が大きく伸びたことから、営業利益は23億2千2百万円(前年同期比 16.4%増)となり、経

常利益は、為替差損や上場子会社の完全子会社化にともなう費用を計上したものの、24億8千4百万円(前年同期比 4.2%増)となり、いずれも上半期の過去最高を更新しました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は16億2千7百万円(前年同期比 0.7%減)と前年同期に次ぐ結果となりました。

株主還元策について

当社は、株主の皆さまへの利益還元を重要な政策と位置づけ、安定した配当の実施を基本方針としてまいりましたが、当中間期より「株主資本配当率(DOE)」を指標として採用し、連結株主資本の5%以上を目安に配当金額を決定することといたしました。当期の中間配当につきましては、1株につき30円から20円増配し50円とし、年間配当は100円を予定しています。また、自己株式の取得につきましても、当期中に25億円、75万株を上限として実施いたします。

今後の取り組みについて

製造業を取り巻く環境は、AI技術の急速な進展やグローバル競争の激化、人材不足など、多くの課題が顕在化していま

す。こうした市場環境のなかで製造業が勝ち残るために、強固なモノづくり基盤に加え、複雑化する課題にしなやかに対応できる組織能力が求められています。当社が製造業向けDX提案の中核としているMBSE^{*}(モデルベース・システムズエンジニアリング)は、今後ますます複雑化・高度化するモノづくりを成功に導くアプローチであり、激しい市場変化に対応できるモノづくり基盤を実現します。

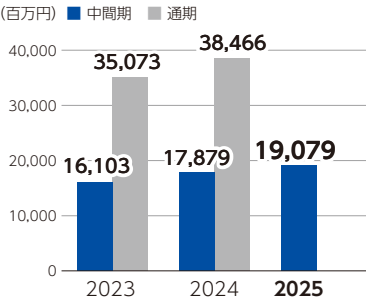
現在、さまざまな産業分野でMBSEの認知が広がり、モノづくりDX基盤として当社のMBSEソリューションの導入が進んでいます。こうした取り組みを通じた実績・ノウハウを活かし、グローバル市場において幅広い分野の製造業のDXに貢献すべく、当社エンジニアリングITの価値をさらに高めてまいります。

株主の皆さまには、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

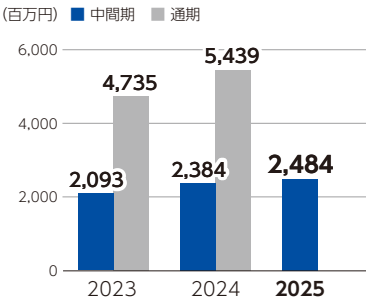
※MBSE(モデルベース・システムズエンジニアリング)：電気・機械・ソフトなど複数の専門分野が複雑に関連し合うシステムの開発を成功させるためのアプローチ(システムズエンジニアリング)をデジタルモデルを活用して行うこと

連結財務ハイライト

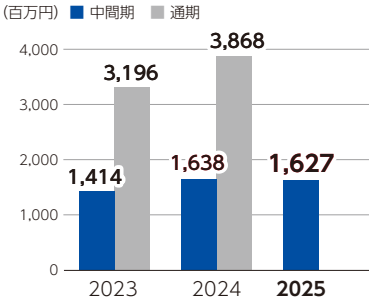
売上高



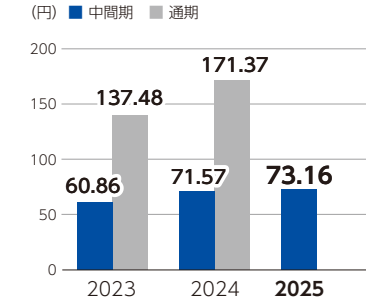
経常利益



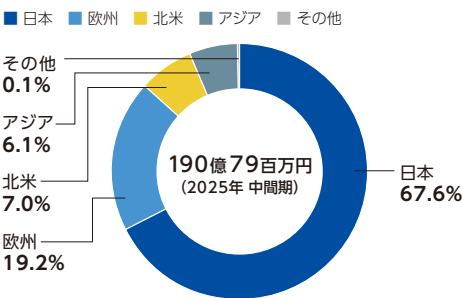
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



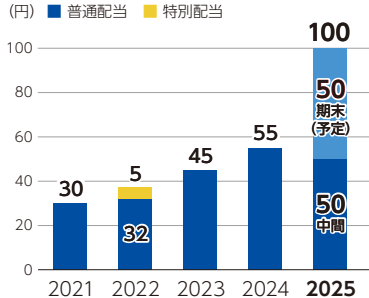
1株当たり中間(当期)純利益



地域別売上高



配当金の推移



モノづくりDXとしてMBSEの効果検証、導入が進展

図研がモノづくりDXとして提案するMBSEソリューションへの関心がさまざまな産業分野で高まっています。先行してMBSEに取り組んできた自動車関連をはじめ、産業機器、医療機器などの製造業のお客さまにおいても導入効果検証(PoC)プロジェクトが進行しています。実際にMBSEをモノづくりに取り入れているお客さまの導入事例として、Zuken Innovation World 2024(2024年10月17日・18日開催)において、本田技研工業様、明電舎様に講演いただきました。

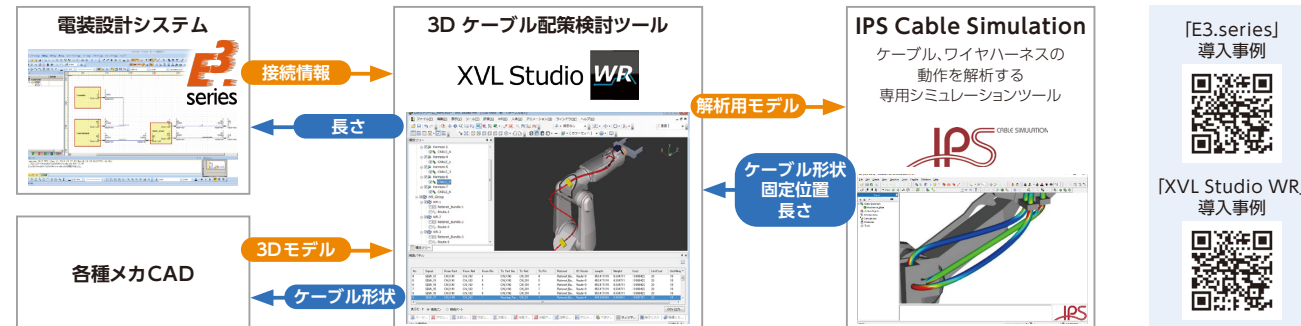


産業機器、プラント設備の設計プロセス革新を支援

ファクトリーオートメーション(工場の生産工程の自動化)、製品開発の省力化ニーズの高まりを受け、図研の電気制御・ケーブル設計関連の製品・サービスの導入が拡大しています。そのお客さま事例として、荏原環境プラント様のプラント設計事例、YKK様、古野電気様の設計製造プロセス改善事例をWebサイトに公開しました。また、医療機器、産業機器、ロボッ

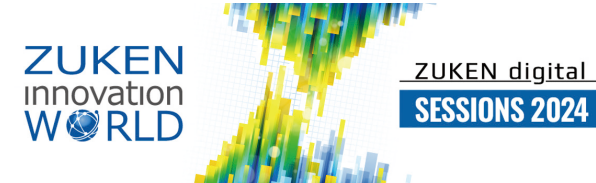
ト、精密機器の製造業を対象に新たなソリューションとして、ロボットアームの設計開発を支援する「次世代3Dケーブル解析ソリューション」を開発し、2024年9月開催の「FACTORY DIGITAL TWIN Webiner」などを通して、販売促進に積極的に取り組みました。

次世代3Dケーブル解析ソリューション (XVL Studio WRとIPS Cable Simulationの連携イメージ)



ZIW / ZdSレポート

モノづくりの先進的な取り組み事例が集結！ 30回目となるZuken Innovation Worldを開催！



2024年10月17日・18日に、図研が世界各国で開催しているプレミアムイベントZuken Innovation World(ZIW)を横浜で開催しました。国内で30回目の開催となる本イベントでは、沖電気工業様、JVCケンウッド様、ソニーセミコンダクタソリューションズ様の特別講演をはじめ、当社のビジョンや事業戦略、お客さまの先進的な取り組み事例などの講演プログラムを提供しました。特にMBSE関連では、本田技研工業様の自動車開発事例や海外の車両開発・鉄道インフラのプロジェクト事例など、多様な事例を発表いただきました。また、当社製品の操作体験会や展示ブース、講演終了後の懇親パーティにも多数のご参加をいただき、盛況のうちに終了しました。

そして、ZIW開催の翌週にはオンラインイベントZUKEN digital SESSIONS(ZdS)を開催。当社製品の開発ロードマップを中心に、お客さまの事例や大学・パートナー企業の最新技術動向に関するセッションをオンデマンドで配信しました。

このZIWとZdSは、モノづくりの課題解決や最新技術トレンドに関する情報収集やお客さま同士の交流の場として、重要な役割を果たしています。今後もお客さまのモノづくりを支援するため、継続的に開催していく予定です。



懇親パーティで挨拶する勝部社長



満席となったZIWの講演会場

Zuken Innovation World

開催日程：2024年10月17日・18日

会場：横浜ベイホテル東急

講演プログラム

<国内企業>

沖電気工業、小松製作所、JVCケンウッド、ソニーセミコンダクタソリューションズ、本田技研工業、明電舎ほか 計19講演

<海外企業>

The University of Arizona(米)、Valeo S.A.(仏)ほか 計5講演

ZUKEN digital SESSIONS

開催期間：2024年10月21日～11月7日

会場：オンライン

主なプログラム

- お客さま事例講演 2セッション
- アカデミック講演 1セッション
- 図研 製品開発ロードマップ ... 11セッション
- 図研 新製品/新ソリューション企画 7セッション
- パートナー企業講演 11セッション
- その他、ZIW講演の一部をアーカイブ配信



来場者でにぎわうZIW展示ブース

図研プリサイト

製造業DX展に出展 AI活用ソリューションに注目が集まる

2024年6月19日～21日に東京ビッグサイトにて開催された「第2回 製造業DX展」に出展。ブースでは、AIを活用したDXソリューションを紹介するプレゼンテーションとデモを実施しました。製造業において人材不足や技術伝承が課題となるなか、過去のトラブル情報や生成AIを活用し再発を防止するプラットフォームである「Qualityforce」への注目が高く、多くのお客さまに会場いただきました。

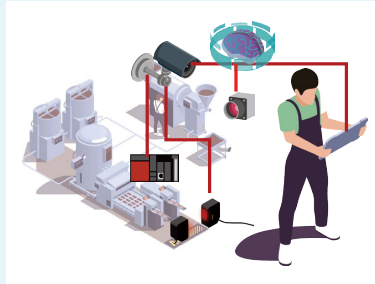


来場者でにぎわう図研プリサイトブース

図研エルミック

製造業向けシステム開発で技術資産を活用

図研エルミックは、低遅延のストリーミング技術や通信プロトコルに関する技術資産を活かし、組込みソフトウェアの受託開発を強化しています。近年、さまざまな産業分野で映像活用が広がるなか、監視カメラとAIや産業機器をつなぐ映像ネットワーク構築のニーズが高まっています。特に製造業向けでは、不良箇所の検出、予兆保全、トレーサビリティの用途で、ITプラットフォーム「FA Finder」を活用した多くのシステム開発を行っています。



さまざまなカメラ、生産設備、見える化ツールを連携

ZUKEN 欧州拠点

欧州5カ国で、Zuken Innovation Worldを開催

2024年6月、図研の欧州5拠点(ドイツ、イギリス、スイス、フランス、イタリア)において、「Accelerate Digital Transformation」をテーマにZuken Innovation Worldを開催。お客さまやパートナーを招待し、最新技術トレンドや当社製品を活用した先進的なDX事例などを紹介する講演を行いました。また、展示や懇親会を通じて参加者同士の活発な意見交換が行われました。



ZIW Germanyの講演会場の様子



ZIW Franceに展示されたGreenGT社のレーシングカー

サステナビリティへの取り組み

図研では、「エンジニアリングITによる持続可能なモノづくりへの貢献」をサステナビリティの重要課題の一つとし、ソフトウェア事業の源泉である人的資本の拡充、モノづくり業界への貢献を目的とした次世代エンジニア育成に積極的に取り組んでいます。



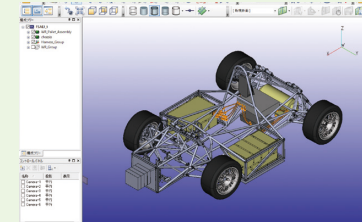
図研のWebサイトに、サステナビリティ関連の情報を掲載しています

学生フォーミュラ2024に協賛

2024年9月9日～14日に、愛知県国際展示場Aichi Sky Expoで開催された「第22回 学生フォーミュラ日本大会2024 ーものづくり・デザインコンペティションー」に協賛し、企業ブースを出展しました。当社が協賛している横浜国立大学のフォーミュラチームが作成した図面データを基に、VR空間上で車両を3D表示するデモを実施。多くの学生や一般の方々にデモを体験いただき、出場チームからも当社製品に対する高い関心を集めました。



多くの学生が来場した当社ブース



フォーミュラカーの設計モデルをVR上で3D表示

大学宇宙工学コンソーシアム UNISECに協賛

超小型衛星やロケットなど宇宙工学の分野で、実践的な教育活動の実現を支援することを目的とする大学宇宙工学コンソーシアム(UNISEC)の活動に賛同し、2023年より企業会員として参画しています。2024年6月には、UNISEC Space Job Fairに参加し、学生に対して当社の製品が宇宙産業にどのように関わっているかについて紹介しました。



スイスのGreenGT社が水素燃料電池車開発にE3.seriesを採用

スイスの水素駆動技術のグローバル企業GreenGT SAは、水素燃料電池車の燃料電池システムと駆動システムの開発を最適化するために、電装設計システム E3.seriesを導入しました。同社は、E3.series導入により水素燃料電池車のプロトタイプカー開発における回路設計やワイヤハーネス設計を効率化し、開発期間の短縮を実現しています。

GreenGT社
導入事例



GreenGT社のプロトタイプカー開発の様子

会社情報 (2024年9月30日現在)

社名 株式会社図研 ZUKEN Inc.
設立 1976 (昭和51) 年12月17日
資本金 101億1,706万5千円
株式市場 東京証券取引所プライム市場
従業員数 444名 連結1,623名
平均年齢 44.2歳
URL <https://www.zuken.co.jp/>

取締役・監査役

代表取締役会長 金子 真人
代表取締役社長 勝部 迅也
代表取締役副社長 相馬 肅一
取締役* 佐野 高志
取締役* 高原 わかな
監査役 (常勤) 和田 扶佐夫
監査役* 半田 高史
監査役* 高田 保豊

※は社外取締役および社外監査役です。

執行役員

専務執行役員 仮屋 和浩
専務執行役員 上野 泰生
執行役員 藤原 宏行
執行役員 大澤 岳夫
執行役員 早乙女 幸一
執行役員 奈良 功
執行役員 大塚 隆夫

株主メモ

事業年度 4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
公告方法 電子公告
(当社Webサイト
<https://www.zuken.co.jp/e-koukoku/>)
なお、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
および口座管理機関 同連絡先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-232-711

図研Webサイトのご案内

コーポレートサイト

投資家情報 (IRサイト)

QRコード

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

口座をお持ちの証券会社にお申出ください。なお、特別口座で株式が管理されている株主の方は、口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

株式会社 図研



本社・中央研究所 〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1
センター南ビル 〒224-8580 横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-11
新横浜ビル 〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1
関西支社 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル
名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20 HF桜通ビルディング

TEL: 045-942-1511(代)
TEL: 045-942-1300(代)
TEL: 045-473-6868(代)
TEL: 06-6343-1141(代)
TEL: 052-950-3671(代)



この報告書は、環境に優しい植物油系インキを使用して印刷しています。